

## ◆ 目的

富山県デジタルによる変革推進条例（案）で掲げる「ゆとりと豊かさを実感できる富山県」の実現に向け、デジタルによる変革と働き方改革を総合的かつ計画的に推進

## ◆ 位置付け

条例に基づく実施計画

## ◆ 期間

令和 6 年度から令和 8 年度まで

## ◆ 推進にあたっての視点

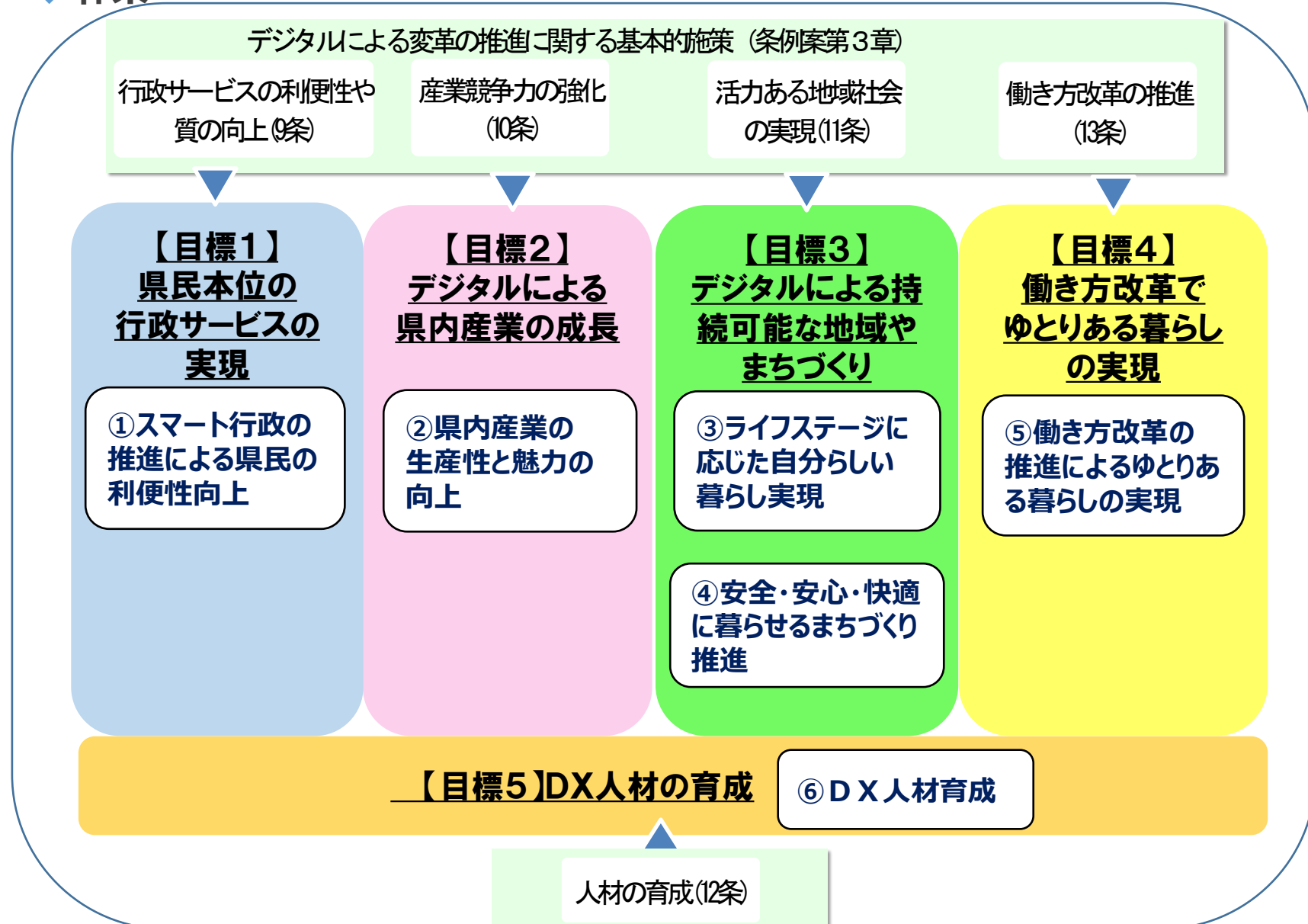
県民目線・スピード感・現場主義

## ◆ 推進体制・進捗管理

令和 3 年度に設置した「DX・働き方改革推進本部」を、条例に基づく組織として位置付け

定期的に(概ね半期ごとに)PDCA サイクルにより進捗状況を評価

## ◆ 体系



# デジタルによる変革の推進に関する目標

	目標	概要
1	県民本位の行政サービスの実現	県・市町村が連携した県民本位の行政サービスが実現し、時間や場所を問わず、利便性の高い行政サービスを楽しんでいる
2	デジタルによる県内産業の成長	事業者の経営の効率化、生産性の向上が図られるとともに、県内産業の魅力が向上し、成長している
3	デジタルによる持続可能な地域やまちづくり	防災、交通、子育て、福祉など様々な分野で、デジタルを活用した地域課題の解決が進展し、生活の質の向上が図られ、誰もが居心地がよくより幸福になれる
4	働き方改革でゆとりある暮らしの実現	企業や学校などあらゆる職場で柔軟な働き方が普及し、ゆとりある暮らしが実現している
5	D X人材の育成	産学官が連携・協力し、デジタル社会に対応するために必要な知識やスキルを持ち、変革を実行できる人材が育ち、産業や暮らしなど様々な分野において活躍している

# 6つの分野における「令和8年度末のありたい姿」と主な取り組み①

分野	令和8年度末のありたい姿	今後の主な取り組み
<p>(1) スマート行政の推進による県民の利便性向上</p>	<p>①県民・事業者が県・市町村との行政手続や公共施設予約などのサービスを、デジタルで完結でき、利便性が向上している。                  ②県・市町村がニーズの高い行政データをオープンデータ化することにより、県民の利便性向上が図られている。                  ③マイナンバーカードの利活用場面が拡大し、カードの利便性が向上している。                  ④デジタルに不慣れな方も、デジタルを活用した行政手続や行政サービスを利用している。</p>	<p>・オンラインによる行政手続や公共施設予約に係る市町村との連携強化                  ・基幹系業務システムの標準化移行支援                  ・スマートフォンの操作に不慣れな高齢者等を地域で継続して支援するボランティアの養成 など</p>
<p>(2) 県内産業の生産性と魅力の向上</p>	<p>①デジタル技術を積極的に取り入れ、新たな価値が創出され、県内産業の成長に繋がっている。                  ②建設業の魅力が向上し、担い手の確保が進んでいる。                  ③生産性向上が図られ、農林水産業がさらに発展している。                  ④観光産業でデータに基づき、戦略的に観光サービスが提供されている。                  ⑤産学官が連携することで、県民一人ひとりに寄り添った最適なサービスが提供されている。</p>	<p>・高精度位置補正情報サービス等スマート農業機械の自動走行に必要な環境整備                  ・官民アプリの連携 など</p>
<p>(3) ライフステージに応じた自分らしい暮らし実現</p>	<p>①自宅に居ながら受診から薬剤の受取りまでをできるなど、住み慣れた地域で医療を受けられる。                  ②介護現場における介護ロボットやICT機器等のテクノロジーの導入・活用が進み職員の負担軽減及び介護サービスの質の向上が実現している。                  ③デジタルやデータを効果的に活用することにより、県民の健康増進が図られている。                  ④子育て家庭が手軽に必要な情報を得られ、子育て支援サービスを利用しやすい環境づくりが実現している。</p>	<p>・オンライン診療に必要な設備整備に対する支援                  ・子育て応援アプリ及び出産・子育て支援ポイント制度の運用 など</p>

## 6つの分野における「令和8年度末のありたい姿」と主な取り組み②

分野	令和8年度末のありたい姿	今後の主な取り組み
<p>(4) 安全・安心・快適に暮らせるまちづくり推進</p>	<p>①デジタルの活用により、公共インフラの安全性がさらに向上している。            ②県民が災害時に必要なリアルタイムの情報を簡単に取得できるほか、デジタル活用により避難や行政の災害救助対応が円滑に行われ、県民の安全・安心が確保されている。            ③警察活動にデータやデジタルを活用することで、県民が安心な暮らしをより実感している。            ④地域交通ネットワーク内のサービスの統合・進化により、出かけたくなる、乗りたくなるネットワークが実現している。            ⑤中山間地域において、デジタル技術活用等による取り組みが進み、その地域に住む人々が安心していきいきと暮らしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県公式Xから各市町村の避難情報や気象警報等を自動発信</li> <li>・ 各種警察事象におけるドローンの積極的活用</li> <li>・ 警察の安全安心アプリ導入による情報発信 など</li> </ul>
<p>(5) 働き方改革の推進によるゆとりある暮らしの実現</p>	<p>①企業等において、労働生産性が向上するとともに、私生活との両立も含めた満足度の高い働き方が実現している。            ②学校において、労務環境が改善され、教員の生徒と向き合う時間が拡大している。            ③県庁において、柔軟な働き方や業務の効率化・生産性向上を通じて、職員が県民に向き合う時間が創出されるとともに、働きがいのある職場が実現している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統合型校務支援システム等デジタルツールの活用による校務の効率化</li> <li>・ 県庁内業務における生成AIの活用 など</li> </ul>
<p>(6) DX人材育成</p>	<p>①学校において、教員のICTを有効に活用して指導する力が向上している。            ②県内大学等において、デジタルやデータサイエンスに関する知識やスキルを持ち、地域や産業のDXを実践できる人材が育成されている。            ③県庁において、デジタルを活用し仕事の進め方などを変革していく人材が配置されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立大学情報工学部設置に伴う新校舎及び研究設備の整備充実、大学院情報工学研究科（仮称）の設置検討 など</li> </ul>

# 6つの分野における主な取組み①

## (1) スマート行政の推進による 県民の利便性向上



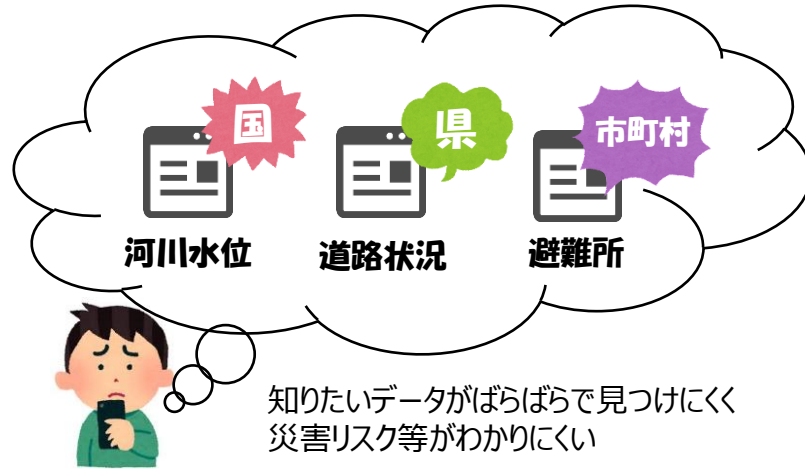
紙、電話、対面での手続きが依然として残り、公共施設ごとに方法がばらばら



【市町と共同で文化・スポーツ施設の予約システムを導入】



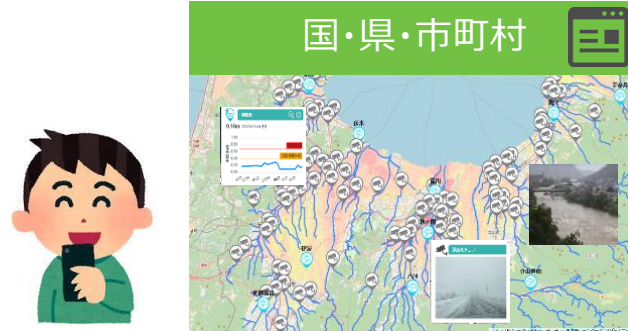
時間や場所にとらわれず、施設予約や  
キャッシュレスで利用料の支払いができる



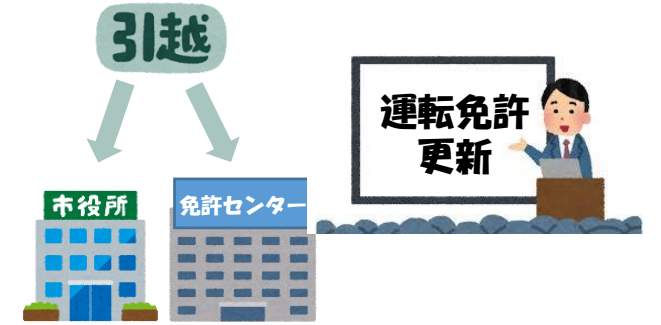
知りたいデータがばらばらで見つけにくく  
災害リスク等がわかりにくい



【データ連携基盤を活用したシームレスな防災マップの提供】



県・市町村等の防災データを地図上から  
簡易に入手できる



手続きが複数必要、対面による受講



【運転免許DX化】



住所変更ワンストップサービスの利用、  
オンラインでの更新時講習受講が可能

# 6つの分野における主な取組み②

## (2) 県内産業の生産性と魅力の向上

県のアプリがばらばらに存在し、  
アプリごとにID・PWを作成・管理



【官民アプリの連携、地域通貨基盤の整備】

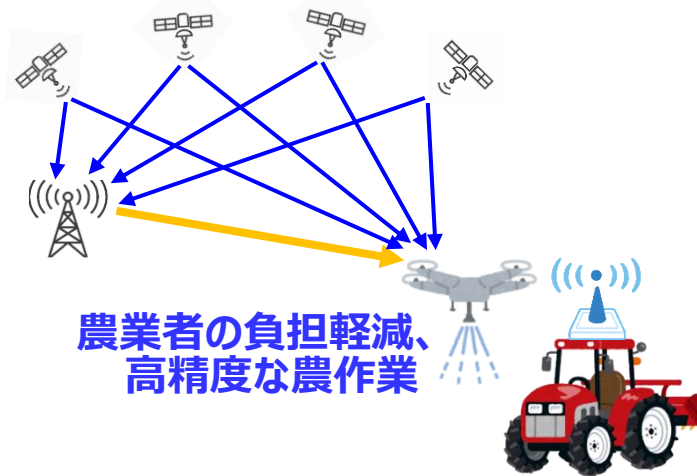


一つの入り口から、一度の本人認証で使  
いたいアプリに簡単にアクセス  
地域通貨（ポイント等）を発行・利用可能

農業者の高齢化や人手不足



【スマート農業機械の自動走行に必要な環境整備】



農業者の負担軽減、  
高精度な農作業

## (3) ライフステージに応じた 自分らしい暮らし実現



対面による診療

【オンライン診療に必要な設  
備整備に対する支援】



住み慣れた地域で  
安心して受診できる



紙の利用券による  
サービス利用

【子育て応援アプリや出産・  
子育て支援ポイント制度の  
運用】



迅速・手軽にサービ  
スを利用できる

# 6つの分野における主な取組み③

## (4) 安全・安心・快適に暮らせるまちづくり推進



情報発信までのタイムラグの発生



【県公式Xから各市町村の防災情報を自動発信】

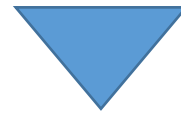


災害時に気象警報や避難指示等の情報を迅速に取得できる

## (5) 働き方改革の推進によるゆとりある暮らしの実現



定型的業務に多くの時間を消費



【県庁内業務における生成AIの活用】



庁内業務の効率化で県民と向き合う時間創出

【統合型校務支援システム等デジタルツールの活用】

校務の効率化で教員の生徒と向き合う時間が拡大



## (6) DX人材育成



デジタル技術やデータ活用に関するスキルを持った人材が不足



【県立大学の新校舎や研究設備の整備充実、大学院情報工学研究科（仮称）の設置検討】



R6.4 県立大学情報工学部新設